

地域の安心・安全に関する意識調査 結果のお知らせ

2014.03.28

厚木市 危機管理部
セーフコミュニティ推進課

* 調査実施:



一般社団法人
子ども安全まちづくりパートナーズ
Community Design Partners for Children's Safety

調査へのご協力、ありがとうございました!

本調査は、地域の安心・安全活動の効果や影響などについて、みなさまのお考えを把握することを目的として、2013年10月に行ったアンケート調査です。

対象は睦合南地区の中から無作為に選んだみなさま(3,000世帯)。1,376名もの方にご回答いただきました(有効回答率45.9%)。

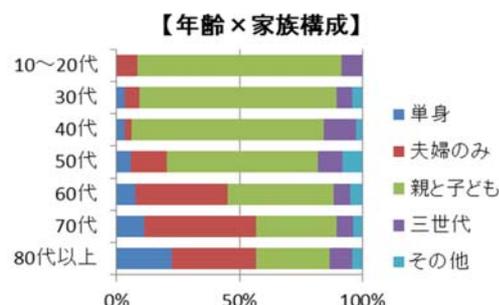
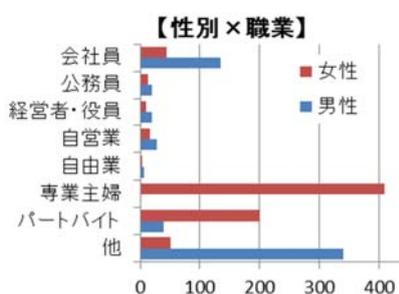
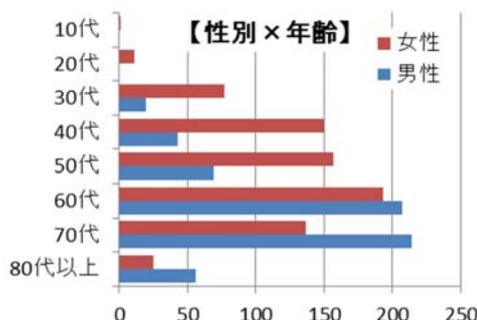
お忙しい中、多くのご回答をお寄せいただき、ありがとうございました。



【0】こんな方々にご回答いただきました

■個人、家族

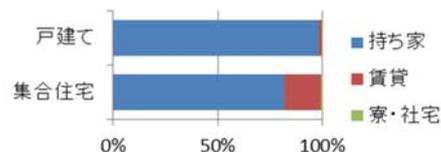
- 年齢は60代(29%)が最多、次いで70代(26%)、50代(17%)、40代(14%)。55%が女性。
 - 男性は70代(35%)と60代(34%)で約7割。女性で60代(26%)、50代(21%)、40代(20%)の順。
- 職業は、専業主婦(31%)とその他(29%)で過半数。次いで多いのはパート等(18%)、会社員(13%)。
 - 男性はその他(58%)と会社員(23%)、女性は専業主婦(55%)とパート等(27%)が多い。
- 同居家族の人数は、多い順に、2人(34%)、3人(26%)、4人(20%)、1人(9%)。
 - 家族構成は「親と子ども」が過半数。高齢になるほど単身者の割合が多い。
 - 18歳以下の子どもと同居している人は約3割。一番若い家族の年齢が5歳以下9%、6~12歳10%。
- 自治会加入率93%、役員経験者77%と多い。
 - 集合住宅居住者のうちマンション管理組合役員経験者72%。
- PTA役員経験者は48%。
- 自宅PCでネット接続をしている人は72%、携帯電話等でのネット利用率は56%。



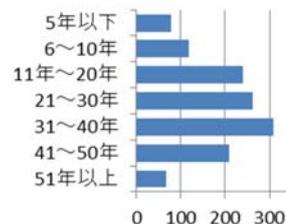
■住居、生活

- 清水小学校区が57%(779人)、妻田小学校区が43%(594人)。
- 戸建(83%)、持ち家(95%)がほとんどである。
 - 持ち家率は、戸建(98%)だけでなく集合住宅でも高い(82%)。
- 地域の居住年数は平均28.7年と長い。
 - 妻田小学校区(平均30年)の方が、清水小学校区(27.7年)より若干長い。
 - 住居の居住年数は全体平均で25年。
- 近所づきあいは深い。「ときどき立ち話をする」程度が最多(41%)、次いで「顔が合えば挨拶する」(36%)。
 - 女性、高齢、自治会役員経験者、居住年数が長い人で近所づきあいをしている傾向がある。
- 地域の中で、「簡単なあいさつ程度」ができる人も「立ち話程度」ができる人も「まったくいない」人はほとんどいない。
 - 「簡単なあいさつ程度」ができる人は「10人以上」が過半数(53%)、「立ち話をする程度」は「5人程度」「1~2人」が最多(各35%)、「気兼ねなく相談できる」および「困ったときに頼みごとができる」はいずれも1~2人が過半数(各々54%、61%)。
- 住んでいる地域に親戚がいる人は31%。
- 平日の日中に自宅近くにいる人が多い(66%)。
- 地域をよく散歩する人は56%。
- 車を運転する人は69%、自転車に乗る人は72%。
- 「非行少年は見ぬふりをする」は68%。
- 「交通事故や犯罪等の被害にあった経験がある」は36%。

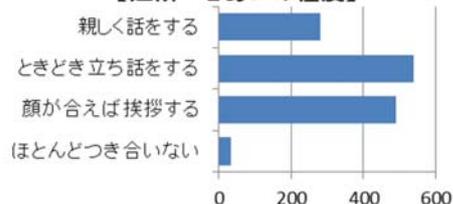
【戸建・集合住宅×所有形態】



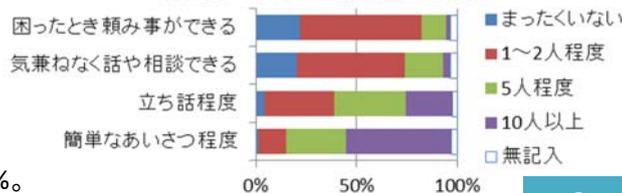
【地域居住年数】



【近所づきあいの程度】

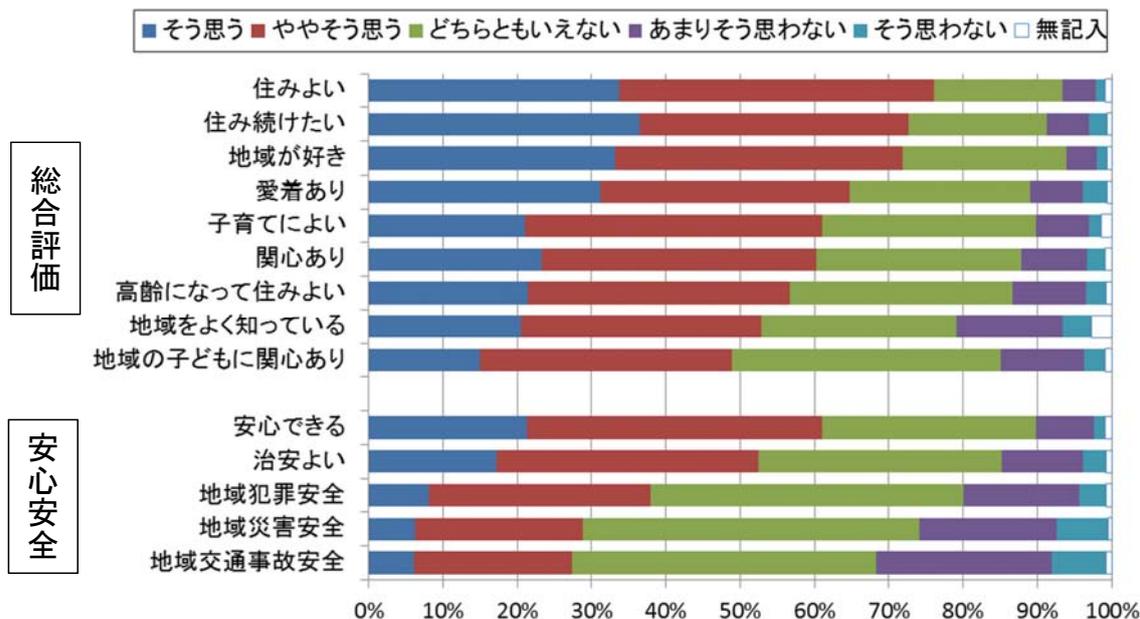


【近所づきあいの程度と人数】



【1】お住まいの地域の評価、お考え

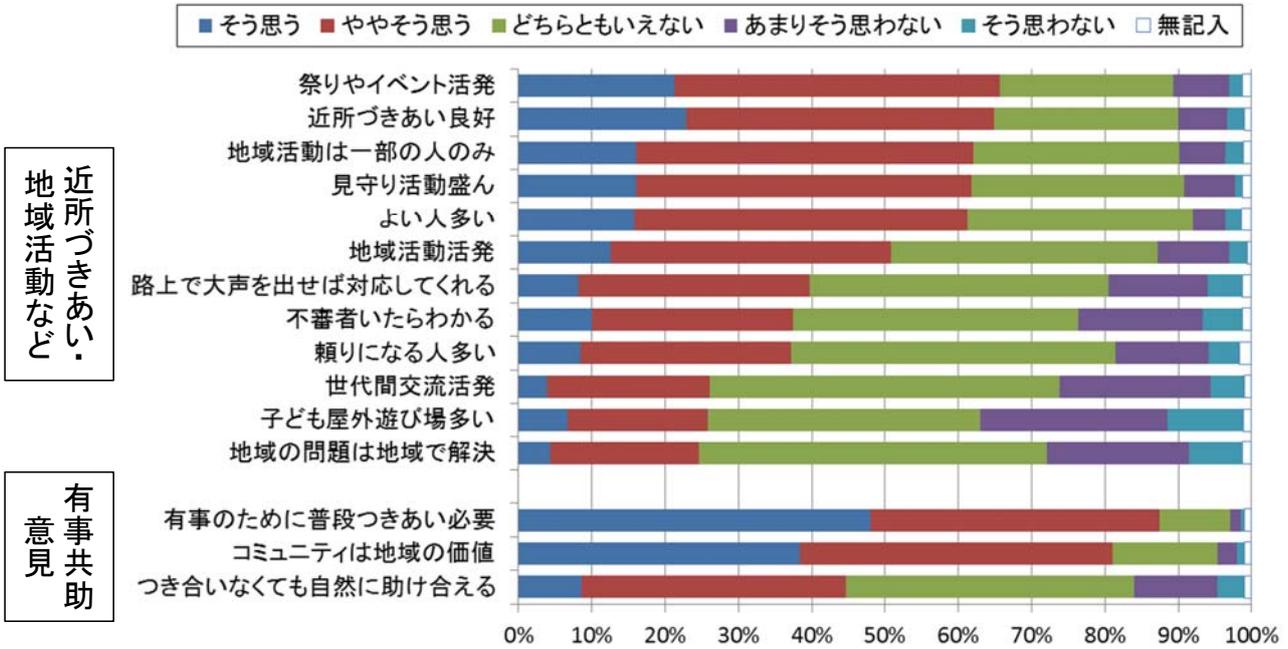
■ あなたは、お住まいの地域についてどうお考えですか。



多くの人が、地域は「住みよい」と考え、「住み続けたい」という意向、「愛着」や「関心」等も高いという結果でした。「安心できる」「治安がよい」という回答も過半数でした。個別には、「犯罪」「災害」「交通事故」の順に、安全だと思う人が多くなっています。個別には、以下の傾向が見られました。

- 近所づきあいの程度が深い人、居住年数が長い人ほど、すべてで肯定的な意見が多い。
- 安心安全についてはとくに高齢者ほど肯定的。ただし、被害経験がある人は否定的。

■ お住まいの地域や近所づきあいに関するあなたの考えを教えてください。

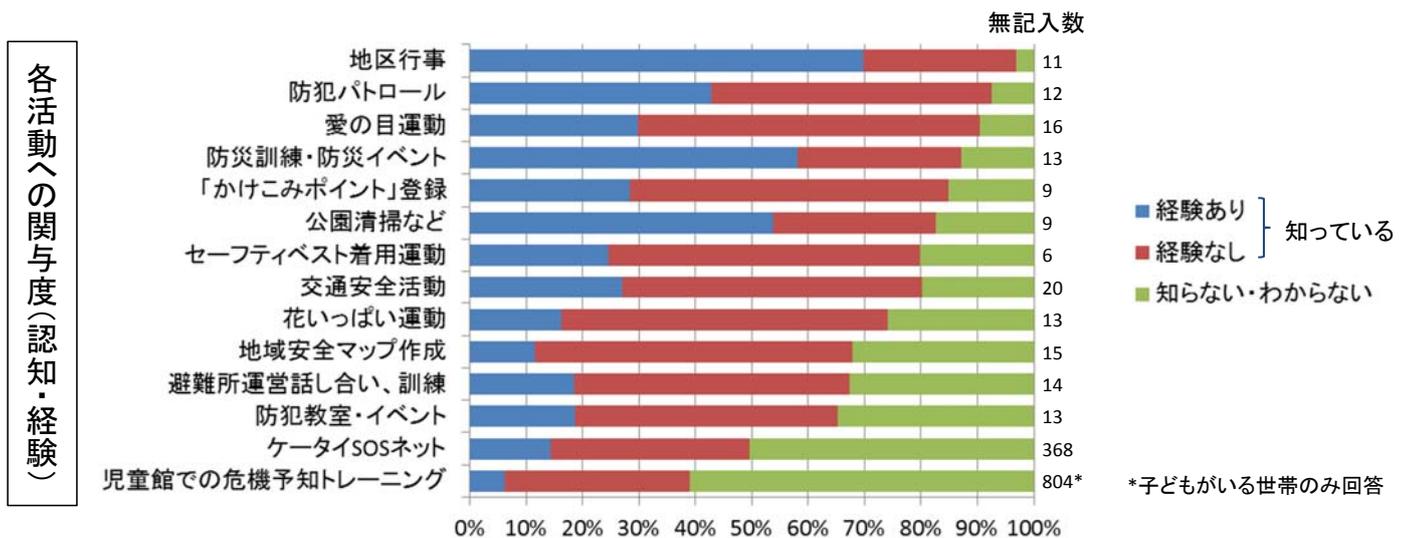


近所づきあいや地域活動等については、ほとんどの項目で「そう思う」側の回答が多く、肯定的にとらえている人が多いという結果でした。ただし、6割を超える人が「地域活動等には一部の人のみ関わっている」と考えています。また、「世代間の交流が活発」「子どもが屋外でのびのびと遊べる場所が多い」「地域の問題は地域で解決できる」等では、否定的な回答も少なくありませんでした。

有事の共助に関する意見では、「いざという時のためには普段のつきあいが必要」は「そう思う」側が87%と非常に多かったのですが、相反する意見である「普段つきあいがなくてもいざとなれば自然に助けあえる」も「そう思う」側が45%と少なくありませんでした。いずれも、近所づきあいの程度が深く、地域の評価が高い層で「そう思う」と回答している率が高いという結果です。

【2】 お住まいの地域の地域活動等について

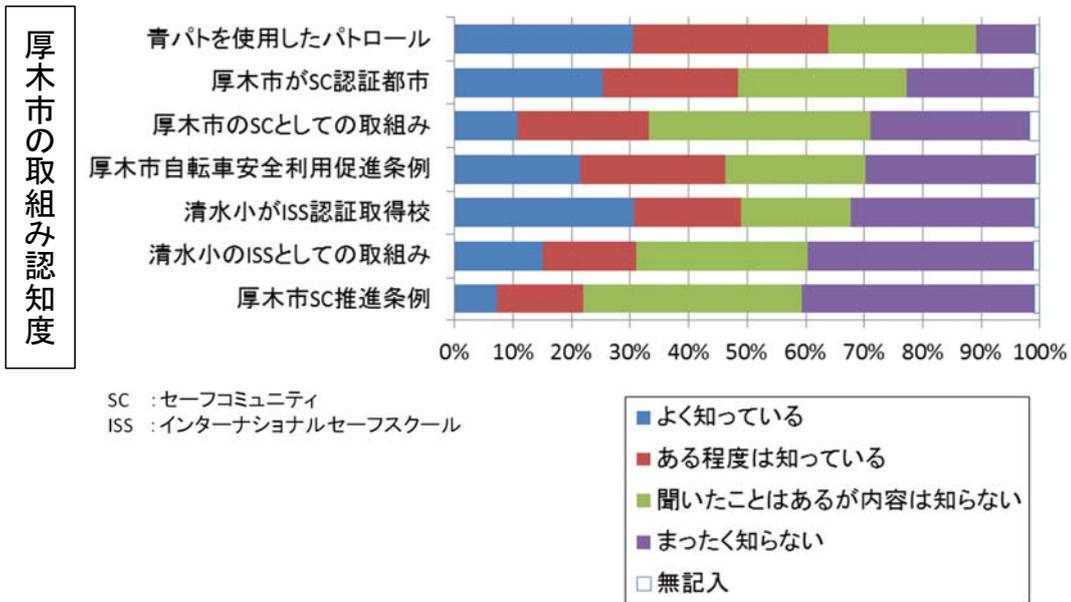
■ あなたのお住まいの地域では、現在どのような地域活動等が行われていますか。また、それらの活動に、あなたやご家族は参加したことがありますか。



個別には、以下の傾向が見られました。

- ・ 近所づきあいが深い人、自治会やPTA役員経験者は、すべての活動への関与度が高い。
- ・ 高齢者ほど「防災訓練・イベント」「避難所運営」「公園清掃」「花いっぱい運動」「児童館での危機予知トレーニング」の関与度が高い。
- ・ 「ケータイSOSネット」関与度は40代が最も高く、次いで30代、50代。また、若い人がいない世帯では低い。
- ・ 清水小学校区の方が「かけこみポイント」「防犯パトロール」の関与度が高い。
- ・ 地域や地域の子どもに関心があるなど、地域を肯定的にとらえている人は、ほぼすべての活動への関与度が高い。

■ 厚木市が行っている以下のことについて、どの程度ご存知ですか。

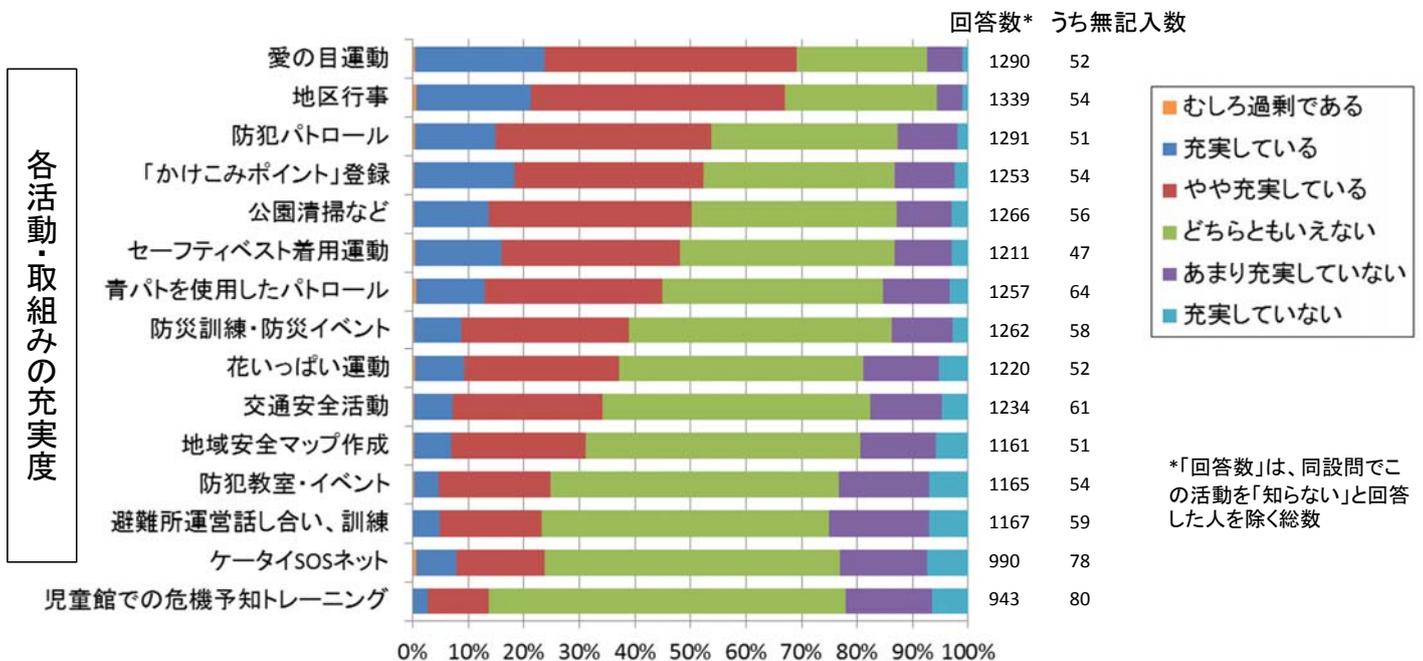


各活動への関与度と同じように、近所づきあいが深い人、および地域や地域の子どもに関心がある、地域が好き、愛着があるなど、地域を肯定的にとらえている人は、すべての取り組みの認知度が高いという傾向が見られました。なお、性別・年齢による差は見られませんでした。

その他、主な関連は以下のとおりです。

- ・ 清水小学校区の方が、清水小の取り組み等はもちろん、その他の取り組みの認知度も高い。
- ・ 一番若い家族の年齢が低い方(小さい子どもがいる世帯)では、「自転車安全利用促進条例」と清水小の取り組みの認知度が高い。

■ 以下の活動、取り組みについて、あなたの意見を教えてください。

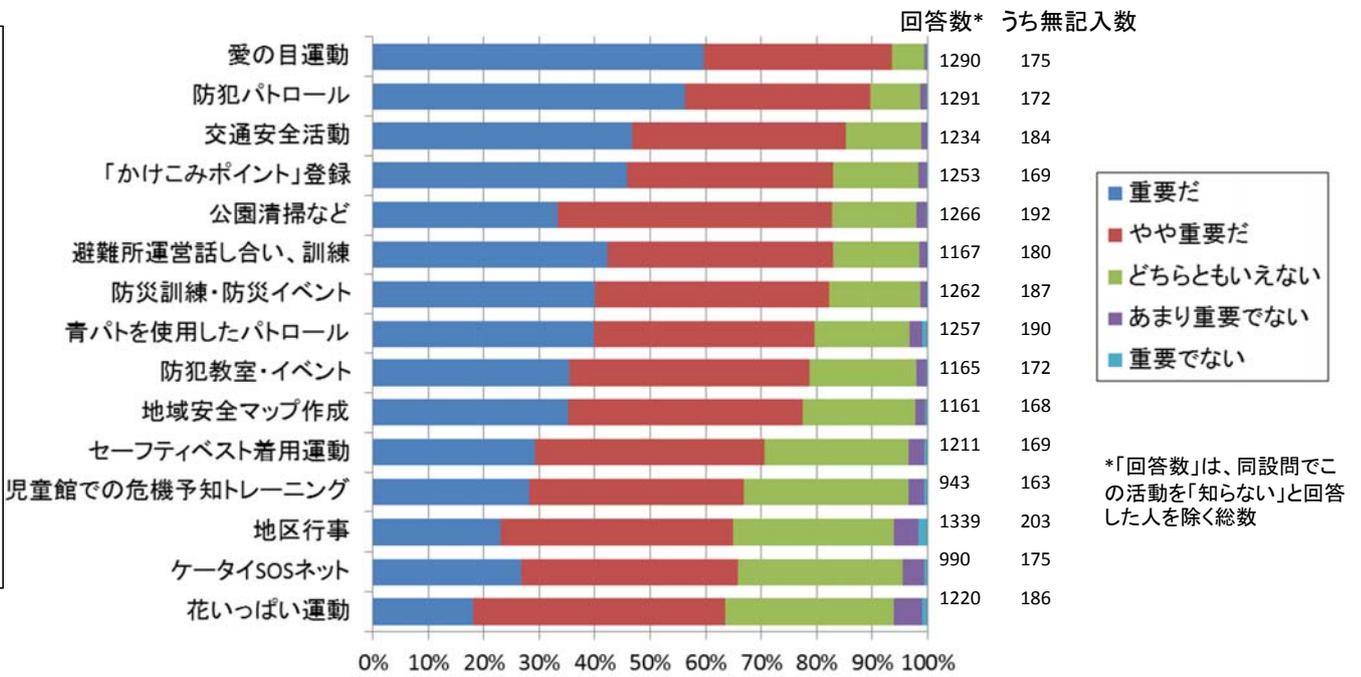


「愛の目運動」「地区行事」などでは「充実している」という回答が多いものもありますが、多くの活動・取り組みでは「どちらともいえない」という回答が最多となっています。なお、充実を通り越して「むしろ過剰である」という評価は、どの活動・取り組みにおいてもほとんど選択されませんでした。

個別には、主に以下の傾向が見られました。充実度と各活動への関与度の相関は高く、以下の傾向は関与度の場合と似ています。

- ・ 近所づきあいが深い人は、多くの活動・取り組みの充実度を高く評価している。
- ・ 清水小学校区の方が「かけこみポイント」「防犯パトロール」の充実度を高く評価している。
- ・ 地域が好き、愛着があるなど、地域を肯定的にとらえている人は、多くの活動・取り組みの充実度を高く評価している。

地域の安心・安全にとっての重要度



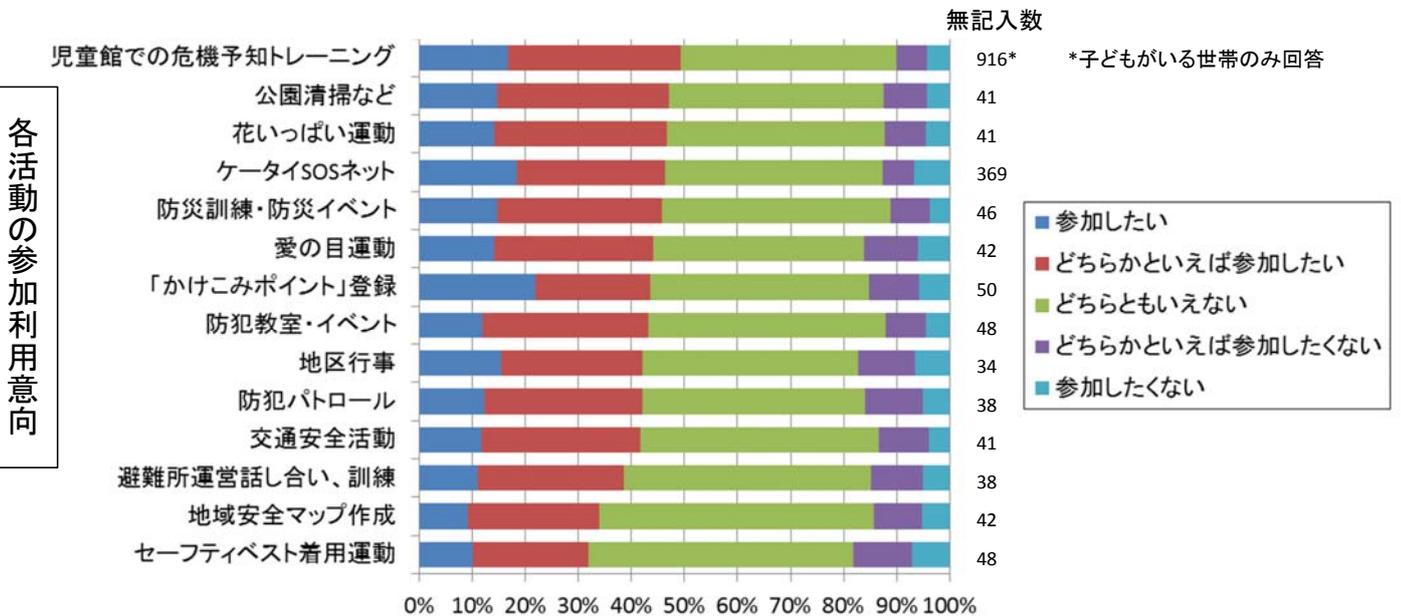
どの活動・取組みも、「地域の安心・安全にとって重要」と考えられているという結果でした。

充実度は低いが、重要だと思われる活動・取組みには、「避難所運営話し合い、訓練」「防犯教室・イベント」「交通安全活動」「児童館での危機予知トレーニング」「地域安全マップ作成」などがあります。

個別には、主に以下の傾向が見られました。なお、校区、性別、年齢等による差は見られませんでした。

- ・ 近所づきあいが深い人は、多くの活動・取組みの重要性を高く評価している。
- ・ 地域が好き、愛着があるなど、地域を肯定的にとらえている人、および「いざという時のためには普段のつきあいが必要」等の意見を持つ人は、多くの活動・取組みの重要性を高く評価している。

今後の地域活動等に対するご意向を教えてください。

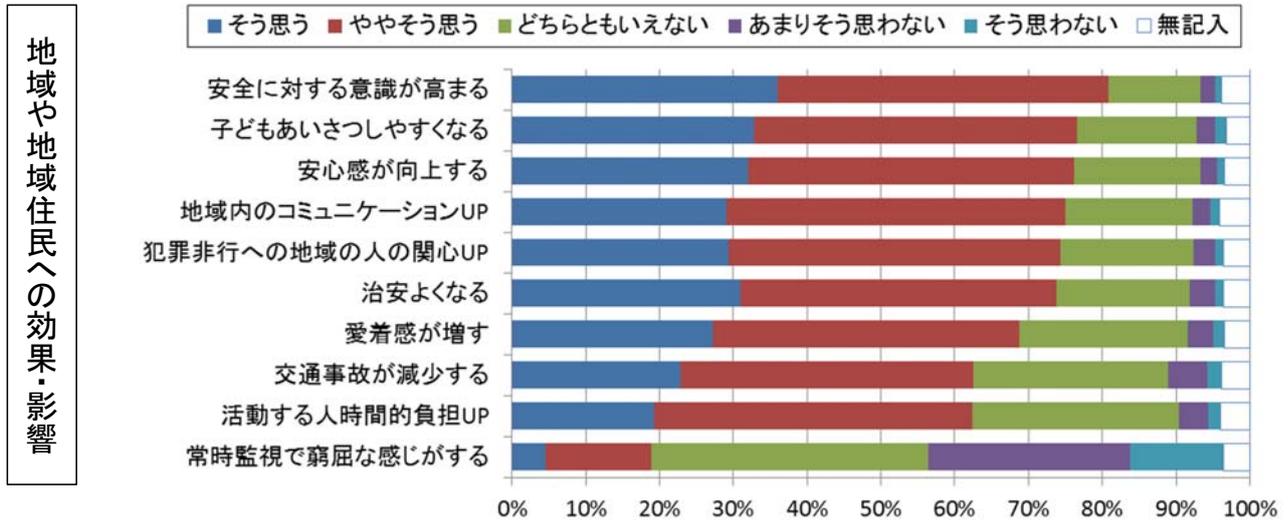


どの活動についても「参加したい」側の回答が多いものの、「どちらともいえない」が最多であり、活動ごとに大きな差はないのが特徴です。

個別には、主に以下の傾向が見られました。

- ・ 「ケータイSOSネット」「児童館での危機予知トレーニング」は、子どもがいる若い女性で意向が高い。
- ・ 近所づきあいが深い人は、「ケータイSOSネット」を除くすべての活動について意向が高い。
- ・ 地域が好き、愛着があるなど、地域を肯定的にとらえている人、および「いざという時のためには普段のつきあいが必要」等の意見を持つ人は、多くの活動への参加利用意向が高い。

■ これまでにお聞きした活動や取組みには、どのような効果、影響があると思いますか。

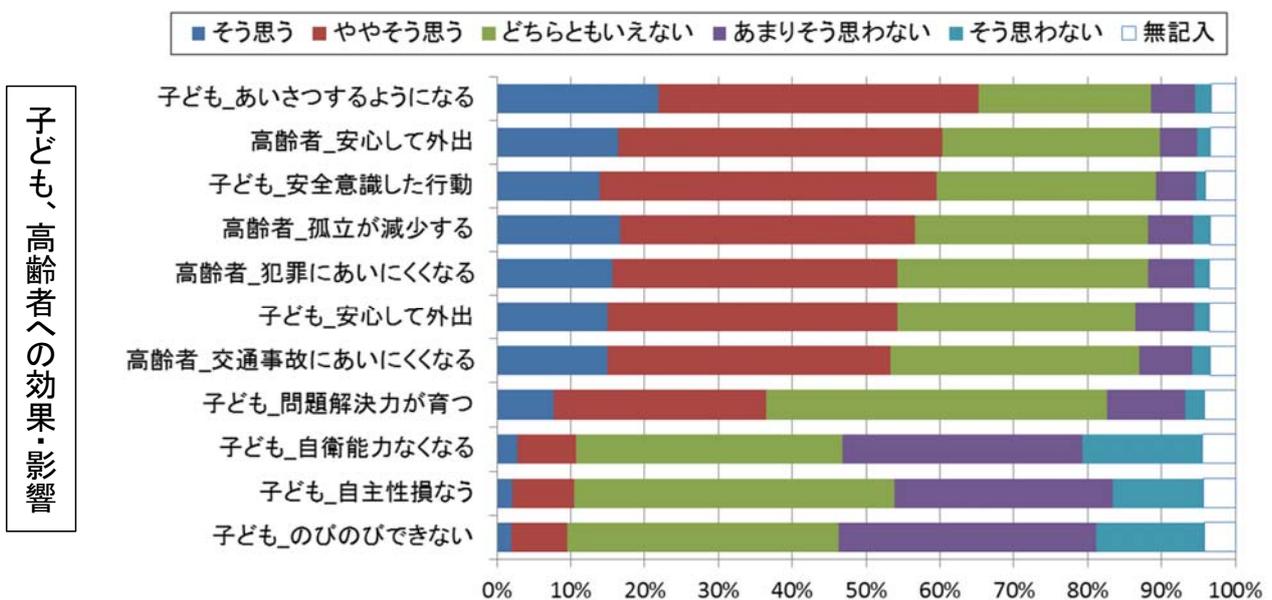


よい効果については、すべて「そう思う」側の回答が大半で、「常に誰かに見られているようで窮屈な感じがする」では「そう思う」側が少ないという結果でした。なお、「交通事故が減少する」「治安がよくなる」という実際の効果より、地域の人の意識やコミュニケーションに関する効果について「そう思う」が若干多いという傾向がありました。

ただし、「活動する人の時間的負担が大きくなる」でも「そう思う」が6割を超えており、他の設問で「地域活動等には一部の人のみ関わっている」でも6割を超えていた結果と一致しています。

個別には、主に以下の傾向が見られました。なお、校区、性別、年齢等による差は見られませんでした。

- 近所づきあいが深い人は、「そう思う」側の回答が多い。
- 地域が好き、愛着がある、地域は安全など、地域を肯定的にとらえている人、および「いざというときのためには普段のつきあいが必要」等の意見を持つ人は、「そう思う」側の回答が多い。
- 各活動を知っていて経験がある人、充実している・重要だと評価している人、参加意向が高い人で、「そう思う」側の回答が多い。



子ども、高齢者への効果についても、ほとんどの項目で「そう思う」側の回答が過半数で、「子どもがのびのびできなくなる」というネガティブな項目では「そう思わない」側の回答は少ないという結果でした。

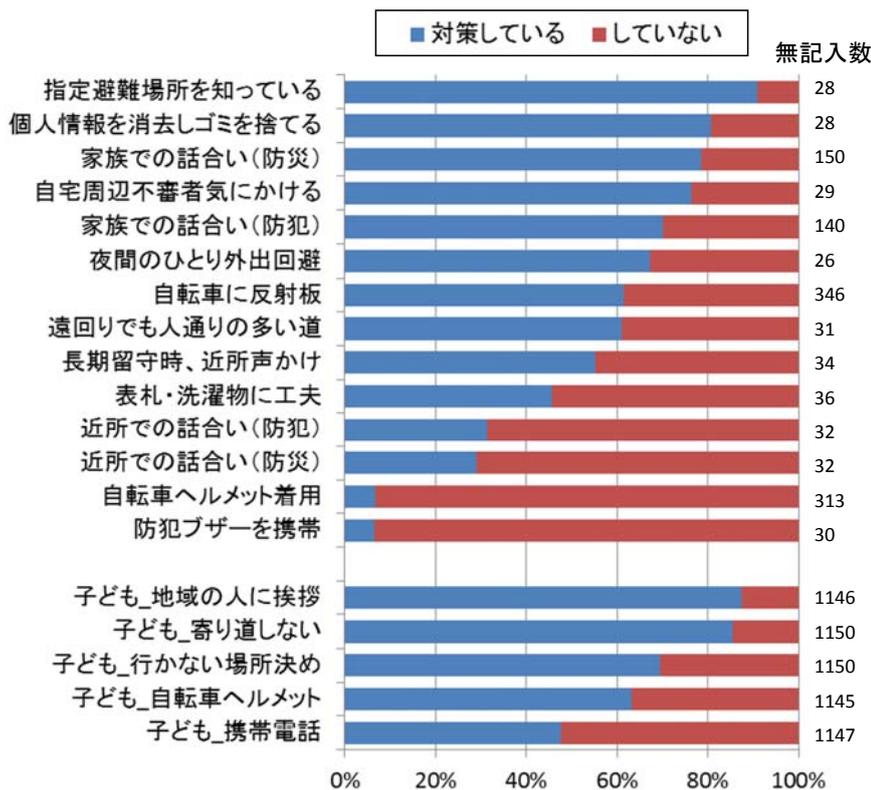
なお、「子どもの問題解決力が育つ」は、「そう思う」側の回答が多いものの「どちらともいえない」が大半という結果でした。

個別には、主に以下の傾向が見られました。なお、校区、性別、年齢等による差は見られませんでした。

- 近所づきあいが深い人は、ポジティブな項目で「そう思う」側の回答が多い。
- 地域が好き、愛着がある、地域は安全など、地域を肯定的にとらえている人、および「いざというときのためには普段のつきあいが必要」等の意見を持つ人は、ポジティブな項目で「そう思う」側の回答が多い。
- 各活動を知っていて経験がある人、充実している・重要だと評価している人、参加意向が高い人で、ポジティブな項目で「そう思う」側の回答が多い。
- ネガティブな項目間には正の相関がある。

【5】安心のための心がけや対策について

■ 安全のために日頃から心がけていること、行っている対策はありますか。

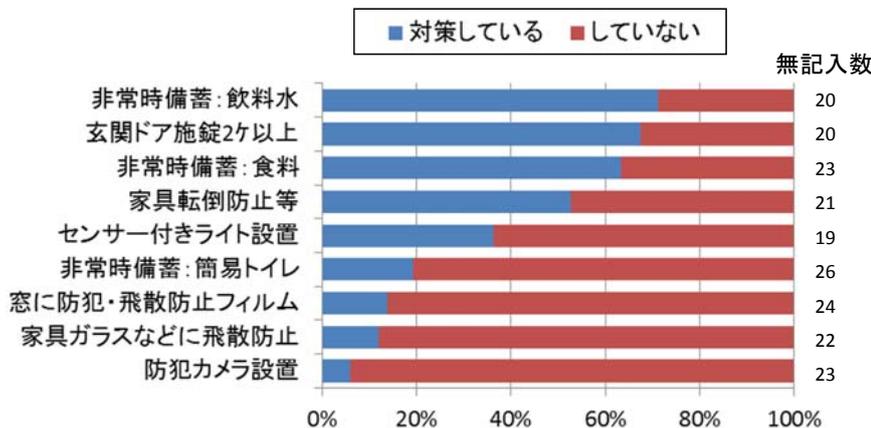


「自転車に乗るときにヘルメットを着用する」「外出時に防犯ブザーなどを携帯している」、近所で防犯や防災について話し合ったことがある人は少数ですが、多くの項目については実行率は高いという結果です。

個別には、主に以下の傾向が見られました。

- 近所づきあいが深い人は、近所での話し合い等の実行率が高い。
- 子どもの対策は、小さな子どものいる女性で実行率が高い。
- 子どもに自転車乗車時にヘルメットを着用させる率は、清水小学校区で高い。また、子どもに着用させている人は自分も着用している率が高い。
- PTA役員経験者は、子どもに自転車乗車時にヘルメットを着用させる率が高いが、携帯電話所持や「地域の人に挨拶」では実施率が低い。
- 家族で防犯や防災についての話し合いをしている人は、各種対策実行率が高い。

■ ご自宅で行っている防犯対策・防災対策はありますか。



戸建か集合住宅かによって実行率が異なっている対策が多くありました。「玄関ドア施錠2ヶ所以上」「センサーライト設置」は戸建住宅で、「防犯カメラ設置」「簡易トイレの備蓄」は集合住宅で実行率が高いという差は顕著でした。

個別には、主に以下の傾向が見られました。なお、校区、性別、年齢、地域の評価、活動の評価等による差はとくに見られませんでした。

- 地震防災対策(非常用備蓄、家具転倒防止、ガラス飛散防止)は互いに相関が高い(ある対策を行っている人は、他の対策も行っている)。
- ガラス飛散防止対策は、互いに相関が高い。
- 「玄関ドア施錠2ヶ所以上」と「センサー付きライト設置」は相関が高い。
- 家族で防犯や防災についての話し合いをしている人、および近所で防災についての話し合いをしている人は、各種対策実行率(とくに地震防災対策)が高い。

